

課 題	天然更新による広葉樹資源の持続的育成手法の確立						開発期間	平成 30 年度～令和 14 年度 2018 年 4 月～2032 年 3 月 (15 年間)
開発箇所	空知署 2513 林班	面積・ プロット数	4.85ha 1 m ² ×512 か所		担当 部署	森林技術・支援センター	共同研究 機 関	森林総合研究所北海道支所
課題の分類	中期 課題	技術開発 基本目標	2	技術開発 目 標	2	その他関係 施 策 等	国有林野の管理経営に関する基本計画	
現状と問題点	人工林資源の充実により主伐再造林は喫緊の課題であり、当面は針葉樹主体の供給とすることが見込まれている。一方、現在の広葉樹材の供給は外材が大半であるものの、北海道森林管理局では針葉樹人工林内に点在する広葉樹資源の有効活用に取り組んでいるところであり、これを含めた国内資源は充実している状況にある。 広葉樹資源を持続的に育成していくためには後継樹の確保が不可欠であり、そのためには多様な樹種、多様な階層構造に誘導するための天然更新技術の確立が必要である。							
開発目的 (数値目標)	広葉樹の後継樹を確保するための施業（更新補助作業）技術の確立 （先駆性のカンバ類等以外の極相性有用広葉樹の更新（アオダモを含む））							
開発方法	開発箇所（夕張広葉樹施業指標林）はアサダ等を主体とした広葉樹天然林で、下層植生はクマイザサが密生して後継樹の更新が期待できないことから、複雑な環境を創出することを目的としてササの根茎を除去する「地がき」と伐根を横転させる「根返し」を組み合わせた更新補助作業を実施し、更新手法や樹冠疎密度が異なる林分における効果を検証するために3つの試験区を設定 ①地がき区：トドマツのほか周囲の広葉樹からの種子供給による針広混交林化を期待して、トドマツが優先する小面積林分で地がきを実施 ②根返し区：周辺母樹からの種子供給（特に遷移後期種）による更新を期待して、樹冠疎密度が高い広葉樹林分内の小面積の開空地で地がきと根返しを実施 ③特別試験区：根返し区と比較して樹冠疎密度が低い広葉樹林分で、作業条件が異なる地がき（全面・筋状）と根返しを実施							
年度別計画	平成 30 年度	令和元年度		令和 2 年度		令和 3～6 年度		令和 7～14 年度
	・ 夕張広葉樹施業指標林でのこれまでの試験結果の総括 ・ 林分調査 ・ 試験箇所を選定 ・ 伐採作業 ・ 販売流通調査	・ 更新補助作業 ・ 功程調査 ・ 種子散布量調査		・ プロットの設定 ・ シカ柵設置 ・ 種子散布量調査 ・ 開空度調査		・ 更新、植生調査 ・ 種子散布量調査 ・ 開空度調査 ※3 年度に実施		・ 更新、植生調査 ※8, 11, 14 年度に実施 ・ 種子散布量調査 ※7～10 年度に実施 ・ 開空度調査 ※13, 14 年度に実施 ・ 完了報告（14 年度）
中間報告				○				
技術開発委員会 における意見								
原課・原班の 意見								
その他								